

IV 介護の状況

1 要介護者等のいる世帯の状況

介護保険法の要支援又は要介護と認定された者のうち、在宅の者（以下「要介護者等」という。）のいる世帯について、世帯構造別にみると、「核家族世帯」が40.2%で最も多く、次いで「単独世帯」が33.2%、「その他の世帯」が17.5%となっている。

年次推移をみると、「単独世帯」の割合は上昇傾向であり、「三世帯世帯」の割合は低下している。（表14）

表14 世帯構造別にみた「要介護者等のいる世帯」の構成割合

（単位：％）

年次	総数	単独世帯	核家族世帯	（再掲） 夫婦のみの 世帯	三世帯世帯	その他の 世帯	（再掲） 高齢者世帯
2001(平成13)年	100.0	15.7	29.3	18.3	32.5	22.4	35.3
’04(16)	100.0	20.2	30.4	19.5	29.4	20.0	40.4
’07(19)	100.0	24.0	32.7	20.2	23.2	20.1	45.7
’10(22)	100.0	26.1	31.4	19.3	22.5	20.1	47.0
’13(25)	100.0	27.4	35.4	21.5	18.4	18.7	50.9
’16(28)	100.0	29.0	37.9	21.9	14.9	18.3	54.5
’19(令和元)	100.0	28.3	40.3	22.2	12.8	18.6	57.1
’22(4)	100.0	30.7	42.1	25.0	10.9	16.4	61.5
’25(7)	100.0	33.2	40.2	23.4	9.0	17.5	61.3

注：2016(平成28)年の数値は、熊本県を除いたものである。

「要介護者等のいる世帯」を現在の要介護度と世帯構造でみると、「単独世帯」では要介護度の低い者のいる世帯の割合が高く、「核家族世帯」「三世帯世帯」では要介護度の高い者のいる世帯の割合が高くなっている（表15）。

表15 世帯構造別にみた「要介護者等のいる世帯」の「要介護者等」の要介護度

（単位：％）

2025(令和7)年

現在の 要介護度	総数	単独世帯	核家族世帯	（再掲） 夫婦のみの 世帯	三世帯世帯	その他の 世帯	（再掲） 高齢者世帯
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
要支援者のいる世帯	35.9	44.1	33.1	33.6	28.8	30.4	38.2
要支援1	18.3	21.6	17.8	19.1	14.8	14.9	19.7
要支援2	17.6	22.6	15.3	14.5	14.0	15.5	18.5
要介護者のいる世帯	62.6	54.7	65.1	64.3	69.5	68.2	60.7
要介護1	20.0	18.2	19.9	21.2	23.3	22.0	19.9
要介護2	19.0	17.4	19.0	18.7	22.5	20.3	18.5
要介護3	11.3	9.0	12.4	10.8	11.3	13.1	10.4
要介護4	7.4	5.7	8.3	8.1	9.4	7.3	6.9
要介護5	4.9	4.4	5.5	5.4	3.0	5.4	4.9

注：1）「現在の要介護度」とは、2025(令和7)年6月の要介護度をいう。

2）「総数」には、要介護度不詳を含む。

3）世帯に複数の要介護者等がいる場合は、要介護度が高い方に計上した。

2 要介護者等の状況

「要介護者等」の年齢を年次推移でみると、年齢の高い階級が占める割合が上昇している。

また、2025（令和7）年の「要介護者等」について、性・年齢階級別にみると、男は「85～89歳」の22.4%、女は「90歳以上」の31.5%が最も多くなっている。（図22、23）

図22 「要介護者等」の年齢階級別構成割合

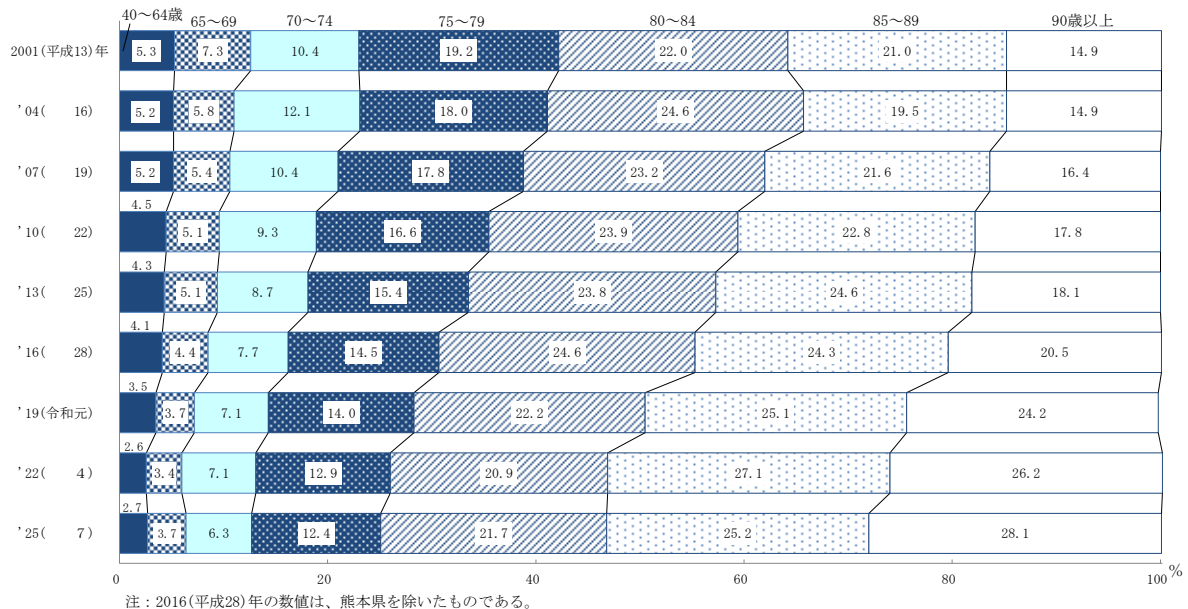
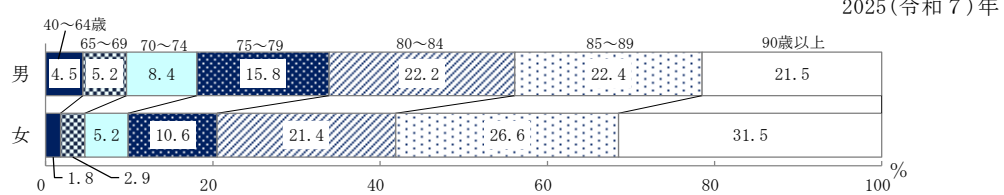


図23 「要介護者等」の性・年齢階級別構成割合



介護が必要となった主な原因について、現在の要介護度別にみると、「要支援者」では「高齢による衰弱」が17.7%で最も多く、次いで「関節疾患」が14.8%となっている。「要介護者」では「認知症」が23.6%で最も多く、次いで「骨折・転倒」が14.8%となっている。（表16）

表16 現在の要介護度別にみた介護が必要となった主な原因（上位3位）

（単位：％）

2025(令和7)年

現在の要介護度	第1位		第2位		第3位	
総 数	認知症	16.7	高齢による衰弱	15.6	骨折・転倒	14.6
要支援者	高齢による衰弱	17.7	関節疾患	14.8	骨折・転倒	14.7
要支援1	高齢による衰弱	18.6	骨折・転倒	13.8	関節疾患	13.3
要支援2	高齢による衰弱	16.9	関節疾患	16.3	骨折・転倒	15.6
要介護者	認知症	23.6	骨折・転倒	14.8	高齢による衰弱	14.5
要介護1	認知症	24.2	高齢による衰弱	18.8	骨折・転倒	14.5
要介護2	認知症	24.0	高齢による衰弱	16.8	骨折・転倒	16.1
要介護3	認知症	23.3	脳血管疾患（脳卒中）	18.8	骨折・転倒	15.2
要介護4	認知症	21.6	脳血管疾患（脳卒中）	15.2	骨折・転倒	14.8
要介護5	脳血管疾患（脳卒中）	27.6	認知症	23.8	高齢による衰弱	11.5

注：「現在の要介護度」とは、2025(令和7)年6月の要介護度をいう。

3 主な介護者の状況

「要介護者等」と「主な介護者」との同別居の状況をみると、「同居」が46.1%となっている。また、「同居の主な介護者」について、「要介護者等」からみた続柄をみると、「配偶者」が22.5%で最も多く、次いで「子」が18.2%となっている。（図24）

さらに、「主な介護者」を同居・別居別にみると、性別では同居・別居ともに女の方が多く、年齢階級別では別居の方が同居に比べ若い世代の割合が多くなっている（図25）。

図24 「要介護者等」からみた「主な介護者」の続柄別構成割合

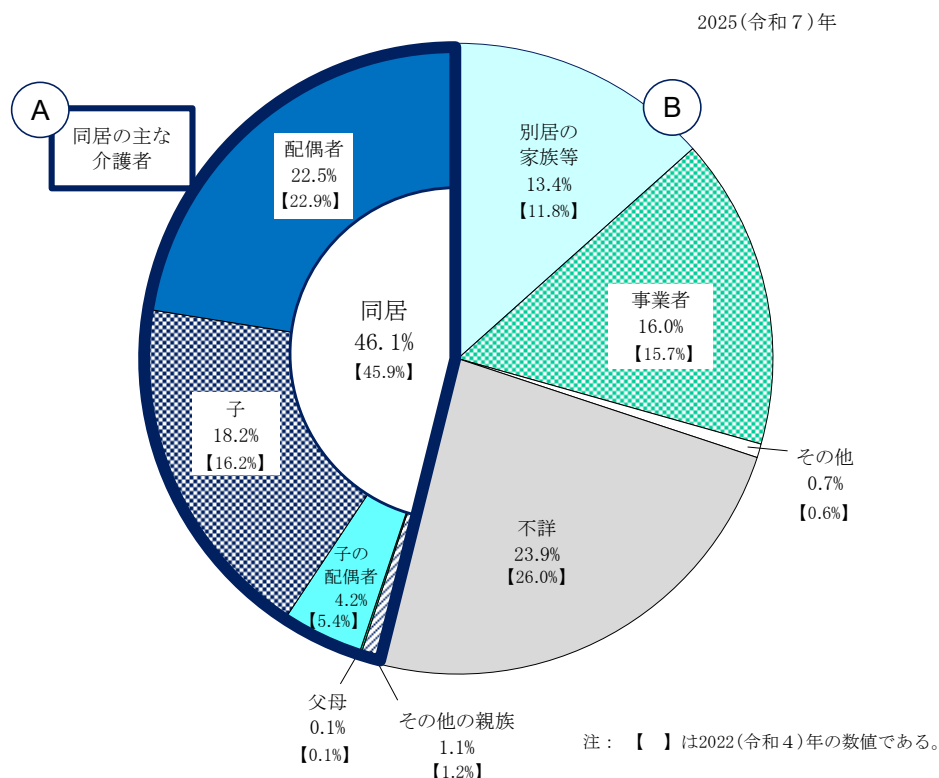
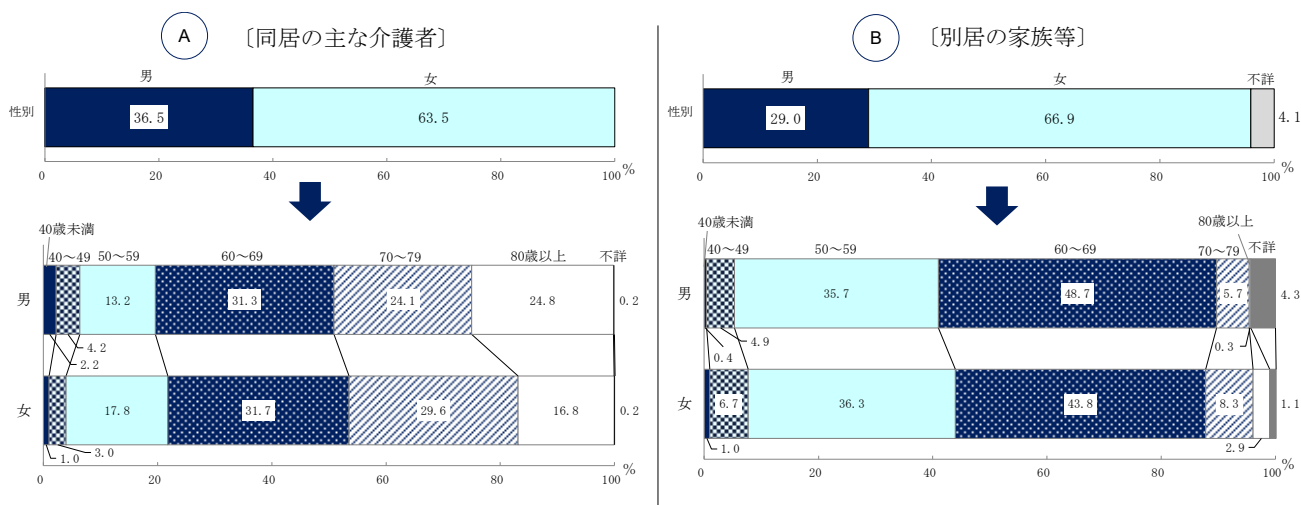


図25 「主な介護者」の性・年齢階級別構成割合

2025(令和7)年



「要介護者等」と「同居の主な介護者」について、年齢の組合せをみると、「60歳以上同士」の割合は79.0%、「65歳以上同士」は61.9%、「75歳以上同士」は37.1%となり、年次推移でみると、いずれもおおむね上昇傾向となっている（表17、図26）。

表 17 「要介護者等」と「同居の主な介護者」の年齢階級別構成割合

(単位：%)

2025(令和7)年

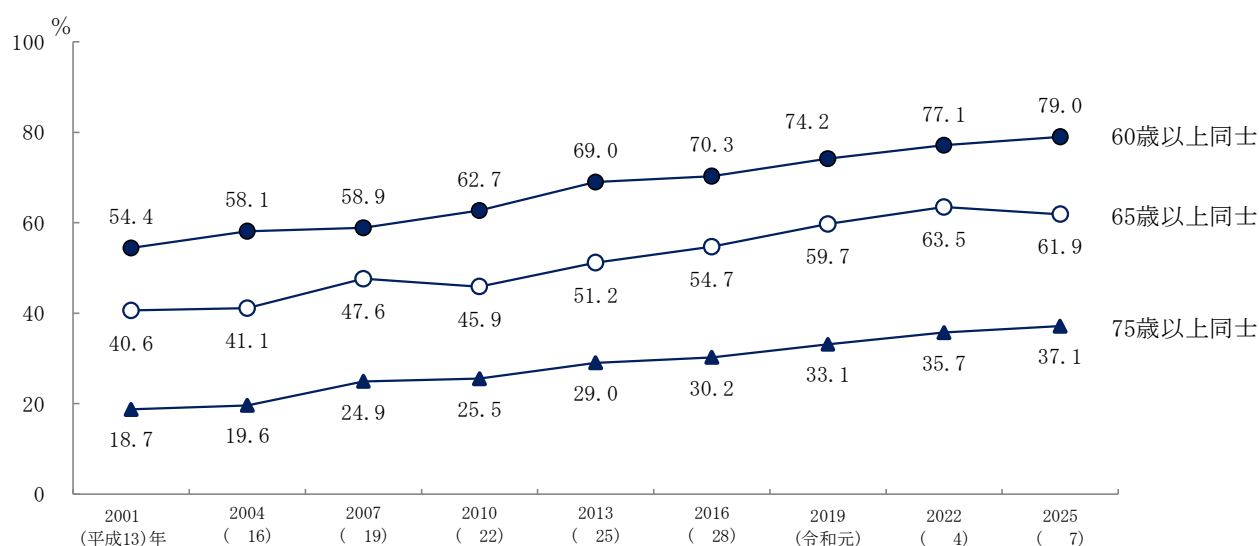
単位：％

2025(令和7)年

		要介護者等の年齢階級								
		総数						(再掲)	(再掲)	(再掲)
			40～64歳	65～69	70～79	80～89	90歳以上	60歳以上	65歳以上	75歳以上
同居の 主な介護者の 年齢階級	総数	[100.0]	[2.1]	[4.5]	[21.7]	[44.2]	[27.4]	[99.4]	[97.9]	[85.9]
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	40歳未満	1.4	7.2	2.4	2.6	0.7	1.0	1.3	1.3	1.0
	40 ～ 49歳	3.4	1.4	5.2	7.2	3.0	0.9	3.5	3.5	3.1
	50 ～ 59	16.1	29.6	2.2	8.0	24.8	9.8	16.0	15.8	17.6
	60 ～ 69	31.6	51.8	65.8	12.1	20.9	57.0	31.7	31.1	30.1
	70 ～ 79	27.6	4.7	23.7	58.4	18.8	19.6	27.6	28.1	25.7
	80歳以上	19.7	5.3	0.6	11.6	31.3	11.6	19.7	20.0	22.2
	(再掲)60歳以上	78.8	61.8	90.2	82.2	71.0	88.2	79.0	79.2	78.0
	(再掲)65歳以上	61.1	23.9	66.8	81.1	53.6	59.4	61.2	61.9	59.8
(再掲)75歳以上	34.5	9.1	3.4	44.6	46.4	14.4	34.5	35.0	37.1	

注：「総数」には、主な介護者の年齢不詳を含む。

図 26 「要介護者等」と「同居の主な介護者」の年齢組合せ

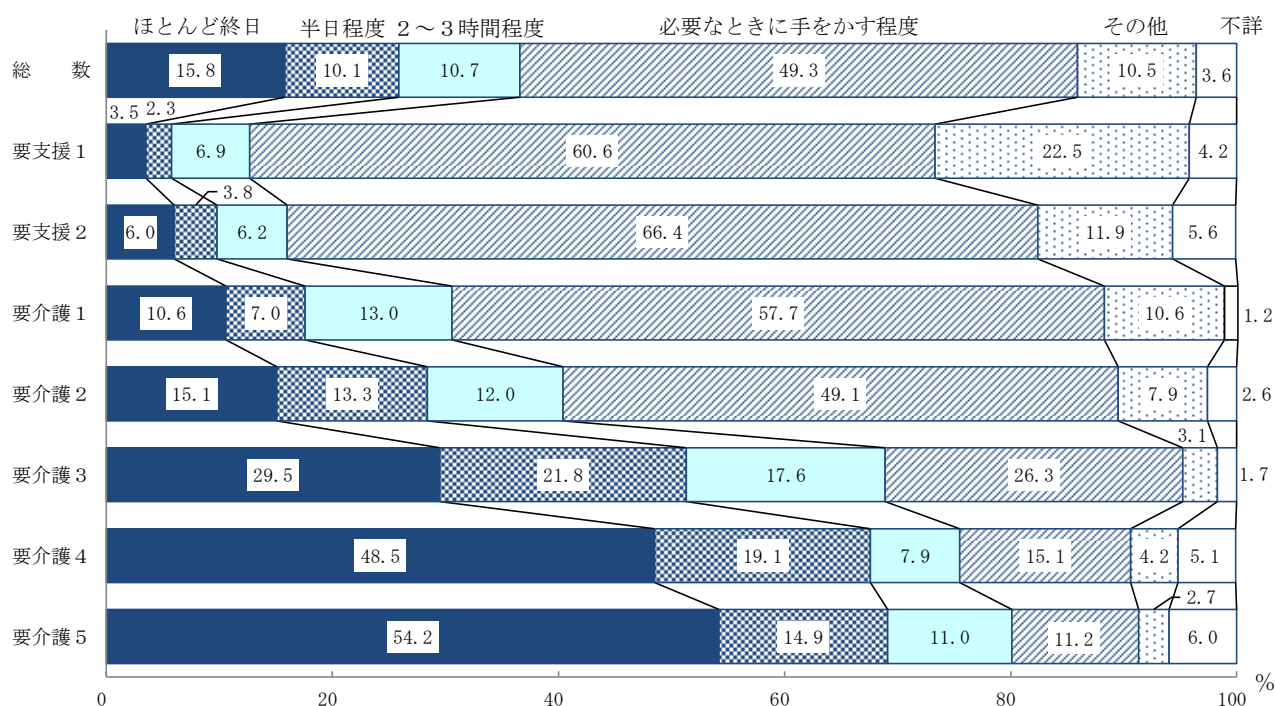


注：2016(平成28)年の数値は、熊本県を除いたものである。

「同居の主な介護者」の介護時間について、「要介護者等」の要介護度別にみると、「要支援1」から「要介護2」までは「必要なときに手をかす程度」が多くなっているが、「要介護3」以上では「ほとんど終日」が最も多くなっている（図27）。

図27 要介護度別にみた「同居の主な介護者」の介護時間の構成割合

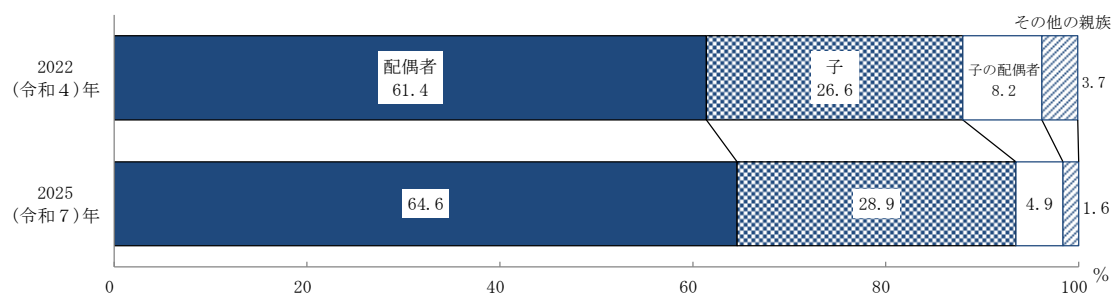
2025(令和7)年



注：「総数」には要介護度不詳を含む。

「同居の主な介護者」のうち、介護時間が「ほとんど終日」である者は、「配偶者」が64.6%と最も多く、次いで「子」が28.9%となっている（図28）。

図28 「同居の主な介護者」の続柄別構成割合



注：1) 「同居の主な介護者」のうち、介護時間が「ほとんど終日」である者を集計した。
2) 「その他の親族」には「父母」を含む。